

# 図書館だより



2019年（令和元年）

5月7日・火曜日

第19号（新着図書号）

北海道旭川永嶺高等学校  
図書館

第18号に引き続き、新着図書は、請求記号、書名、著者、出版社の順に記載しています。

請求記号	書名	著者	出版社
4 自然科学			
4 3 1	宮澤賢治の元素図鑑		

桜井弘 化学同人  
幼いころ「石っこ賢さん」とよばれたほど石に熱中した宮澤賢治が残した作品から、「元素」や元素の塊である「鉱物」に触れた文章を写真とともに紹介しています。賢治の作品は国語教材として親しまれているものが多く、その文章中には多くの元素や鉱物が登場します。たとえば、『やまなし』では、「水銀」「銀」「黄金」「金剛石」「水晶」。これらを賢治の描く心象にふれる手がかかりとして、文章とともに元素を解説しています。作品以外にも、現在知られている118の元素すべてを取りあげました。毎日、読売、産経等の新聞書評でも紹介。

## 4 5 5 揺れ動く大地—プレートと北海道

木村学 北海道新聞社  
巨大地震がやって来る—。私たちの過去と未来を知る鍵は足元にあります。太平洋プレートやオホーツクプレートかせめぎ合う北海道周辺の地質構造から千島海溝沿いの地殻運動まで、北海道の成り立ちとプレートの動きを最新の研究成果をもとに解き明かします。「日高山脈はどのようにできたか」「道内の活断層と地震のかかわりは」など動き続ける大地の法則に迫ります。



『科学』（岩波書店）1月号の巻頭エッセイでも紹介。

## 4 7 7 桜の科学

勝木俊雄 SBクリエイティブ  
桜は、底知れぬ魅力をもっています。けっこう知っているつもりでも、どのように育ち、咲き、実をつけ、枯れるのかをあらためて見ていくと、想像もしなかった事実や歴史に出合えるでしょう。そこで本書では、生き物としての桜を20年以上研究している著者が、その知られざる面を中心に、50のトピックスにまとめました。現地調査やDNA分析、歴史的資料とともに「科学的な謎解き」を楽しみつつ、「新しい桜の見方」に触れられる1冊です。



## 4 9 8 「おいしさ」の科学

佐藤成美 講談社  
焼き色がつくと、なぜおいしいのか?とろりとした食感は、どんな化学変化?なぜ魚の赤身と白身で、切る厚さをかえるのか?アルコールがないのに、酔いこちになるとは?おいしい天ぷらはなぜサクサクしている?ハンバーグはこねるとなぜおいしくなる?脂肪と糖はなぜおいしい?最近の冷凍食品がおいしいのはなぜか?塩鮭にはコーヒーがよく合う!?分子レベルで解明された、おいしさのメカニズム。身近な食に関する疑問が、科学でわかります。



## 5 技術

### 5 0 9 手仕事のはなし

阿部直美 河出書房新社  
「江戸風鈴」「本種子鉄」「伊庭善のスツール」「薩摩ボタン」etc.全国の職人たちによって丁寧に作られた逸品とその制作にまつわるエピソードを、温かな目線で追ったフォトエッセイです。

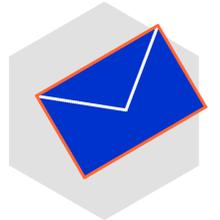
## 5 5 9 届かなかった手紙

大平一枝 KADOKAWA  
原子爆弾開発のきっかけを作った科学者は無警告使用中止の手紙を送っていました。

「いま、シラードを知っているアメリカ人はほとんどいない」—。

巨大な爆弾製造の可能性を予見し、「ナチスに対抗するために、アメリカでも原子力爆弾の研究が必要です」とアインシュタインに手紙を書かせたハンガリー生まれのユダヤ系物理学者、レオ・シラード。彼は原爆投下の直前、トルーマン大統領宛に、無警告使用に反対する七〇名の科学者の署名を集めた。製造をたきつけておきながら、なぜ使用を止めようとしたのか。そんな人物がなぜ歴史から葬られているのか。署名はその後どうなったのか。

彼の名が消えた理由、そして、総費用二兆円、関わった労働者11万人余と言われるマンハッタン計画の本質とは。それは、すなわち原爆とはなんであったかという問いの答えでもあったのです。朝日新聞等の書評でも紹介。



## 5 7 6 香りと歴史7つの物語

渡辺昌宏 岩波書店  
古代から現代にいたるまでいつの時代も「香り」は多くの人々を魅了してきました。本書では、アレクサンドロス大王を虜にした乳香、玄宗皇帝と楊貴妃に秘められた竜腦、織田信長が切望した蘭奢待、ナポレオン皇妃が愛したバラなど香りにまつわる7つの物語を紹介します。歴史の裏に香りあり…。香りであつた歴史物語です。書評紙「週刊読書人」でも紹介。

